

開発途上国における人的資本蓄積と プロダクトサイクルに関する動学分析*

森寺 康勝†

概要

本稿は Tanaka and Iwaisako (2009) に基づき、バラエティ拡大モデルを 2 期間世代重複モデルに適用し、南北 2 国による製品の開発・模倣活動の動学分析を行った。開発途上国の教育水準を示す変数を新たに導入することで、教育水準と模倣活動、および労働者の内生的な技能習得が相互に影響を与え合うメカニズムが生まれ、定常状態が複数存在する可能性が示された。模倣水準および教育水準が低い途上国では、南北間の技術ギャップが大きいため先進技術の習得をスムーズに行うことができず、結果的にそれら両水準がともに低下していく場合がある。一方で、国民の教育レベルを向上させることで、途上国企業の技術吸収力が拡大し、北から南への技術伝播が促される、そして、模倣水準および教育水準をさらに向上させることができる可能性があることが示された。

* 本稿作成にあたり、二神孝一教授、小野善康教授、祝迫達郎准教授から、非常に有益なコメントを数多く頂いた。ここに記して感謝したい。有り得るべき誤りの一切は筆者のみに帰するものである。

† 大阪大学大学院経済学研究科博士前期課程 2 年経済学専攻